

令和8年度鳥取大学入学式 学長式辞

新入生のみなさん。入学おめでとうございます。

ようこそ、鳥取大学へ。

鳥取大学を代表して、そして、鳥取大学の先輩として、みなさんの入学をこころよりお祝いし歓迎いたします。コロナパンデミックの頃を考えると、このように新入生が一堂に会して入学式が挙行できますことを、改めて本当に嬉しく思います。

鳥取大学は昭和24年、1949年に、鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学などを前身校として、新制国立大学としてスタートしました。前身校から数えると、80年から100年の長い歴史を持っています。百年の歴史の中で生まれ、一貫して流れ続けている精神。それこそが、本学の基本理念である「知と実践の融合」です。

この理念は、単に「理論を学び、それを使って何かを作る」という表面的な意味に留まりません。本学は、実学を重視して、地域社会が直面する切実な課題に正面から向き合い、生活の向上と産業の育成を通して社会に貢献してきました。地域の課題解決という具体的な実践の中から、人類にとって普遍的な価値を持つ知識を見出し、日本を超え世界へと発信してきたのです。この成果は、学問の発展はもとより世界の平和や福祉の向上にも大きく寄与してきました。

では、なぜ今、私が皆さんにこの大切な理念を託したいのか。その理由を説明いたします。

それは、私たちが今まさに、先行きが不透明で混沌とした「不確実性の時代」に直面しているからです。気候変動、地震、豪雪などの自然災害、コロナなど感染症のパンデミック、国際政治の不安定化による戦争、明日を予測するのは誰にもできないと言っている状況です。このような時代に、私たちはいったい、どのように備えることができるのでしょうか？

その答えを導き出す鍵こそが、この理念の中にあります。皆さんには大学での学びを通じ、この精神を自分自身の血や肉としてほしいと願っています。

こうした社会状況に加え、現代を生きる皆さんが直面している大きな課題は情報の氾濫です。ネットで簡単にあらゆる情報を得るのが当たり前となっていて、瞬時にどんなことも調べることができますが、ただ、その書いてある情報をそのまま鵜呑みにしていませんか？安易な情報が溢れ、何が真実なのかが見えにくい社会になっています。特に、複数の情報源が同じ様な内容や説明をしていたりすると、容易に間違った情報に導かれてしまいます。今では、ネットだけでなく、新聞やテレビといった既存のマスメディアですら、私たちと同じように、不確かな情報に踊らされてしまう様な出来事も起こっています。

さらに、この変化の激しい時代に、人工知能 AI が身近になってきました。人間が独占

してきた、多くの情報を統合して、ストーリーを生み出すというようなことを、人間の能力を遥かに超えて AI ができるようになりました。人間の生活を便利に支えるという本来の姿からかけ離れ、AI に人間がコントロールされるという可能性すらあります。この IT と AI の時代に生きる私たちに必要なものは何でしょうか？

その答えは、自分で考えると言うことです。あまりに簡単な事だと思っていますよね。これができていないんですよ。自分で考えることができる力と自分自身のアイデンティティー、あるいは「プリンシプル」、行動の指針、信条と言ってもいいですが、「自分自身の考え」に自信が持てて、それを貫くことができるかかどうか。そこが大変重要だと思います。

例を挙げてみましょう。

コロナ感染症によって世界中が大混乱に陥った 3 年間のことを皆さんはよく覚えているはずですよ。皆さんは、中学生でしたでしょうか？

私はコロナ禍の 3 年間、医学部附属病院長として、最前線でコロナウイルスとの戦いに身を置きました。コロナ前、私たちは、現代医学は、感染症をほぼ克服したと錯覚していました。ところが、COVID-19 という未知のウイルスは瞬く間に世界を席卷し、500 万人以上の命を奪いました。

私たちが「当たり前」だと思っていた日常生活をいとも簡単に崩壊させました。外出や移動が制限され、飲食店は休業に追い込まれ、イベントが消えました。大学の講義は全てリモートになり、病院での実習は中止され、大切な人との面会すら叶わなくなりました。医療現場では、医療従事者がオーバーワークで疲弊し、病院機能はマヒしました。刻々と状況が変化し日々の対応は、戦場のような状況でした。

この混乱の中で、ネットやマスコミの情報は錯綜して、決して正しいものばかりではなく、感染者や医療者への偏見や差別も、起こってしまいました。本当に悲しいことです。何が本当か、社会的に優先する事項はいったい何かが、見えなくなりました。この時に私が気づいた最も重要なことが、自分自信で考えるということです。自分で考えるよりほかになかった、と言っても良いかもしれません。

自分で考えるということは、情報が溢れている現代に生きる私たちに最も必要なものであると思います。自分で考えることができる力と自分自身のアイデンティティーとプリンシプル、行動の指針が一番重要だと思います。

今日から皆さんのアイデンティティーは鳥取大学です。そしてプリンシプルは『知と実践の融合』です。「実践」とは、自ら行動して自分自身で体験することです。特に、この、自ら動くということがもっとも重要です。

そして、同時に自分自身で考えることです。これこそが、皆さんが本学で学ぶ、最も強力な武器であり、これからの複雑な社会を生き抜くための原動力となります。

そのためには、なるべく多くの俯瞰的で公平な情報を収集して、偏見や予断に惑わされず、冷静に判断する姿勢を養ってほしいと思います。この判断には「心理的レジリエンス」、いわゆる「柔軟性」という意味ですが、これこそが重要です。ファクトを重視し

て、良識に基づいたバランス感覚を持って物事を受け止めることが大切です。権威や大きい声の意見に決して惑わされずに、冷静にじっくりと判断してください。難しいことですが、これらは自分から意識して求めないと決して得られないものです。

もう一つ、皆さんに伝えたいことがあります。「リベラルアーツ」という言葉を知っていますか？

「実用的な目的から離れた純粋な教養」、あるいは「一般教養」のことです。大学では、各学部で学ぶ専門教育が重要であり、皆さんが、将来生きていくための原動力になることは間違いありません。

では、歴史や文学、芸術などの教養教育はどんな意味があるのでしょうか？私は、一般教養は人間の幅を広げ、豊かな生活を送っていく上で、重要であり、欠かせないものだと考えています。人は1人では生きていくことはできません。人と人とを結ぶコミュニケーションや友情・愛情を彩るものとして教養はとても大事です。心に余裕ができて、心理的レジリエンスを鍛えることにつながります。いつでも教養は身につけることができますが、若くて思考にも柔軟性があり、時間に余裕がある大学時代がひとつのチャンスです。多くの本や小説、絵や書などの芸術作品、演劇、映画、音楽、文化に触れて感性を養ってください。

最後に、皆さんは今日から鳥取大学生になって、大学の大切なステークホルダーです。つまり、大学の一員であり主役です。

そこで、大学の使命についてもお話しします。私は、国立大学は「社会的共通資本」であると考えています。社会的共通資本とは、「一つの国、ないし特定の地域に住む全ての人々が、豊かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的に維持することを可能とするような、社会的装置」です。これは、日本人でノーベル経済学賞に最も近づいたといわれた鳥取県米子市出身の経済学者・宇沢弘文先生が唱えられた理論です。つまり、大学の役割は、この地域の人々、ひいては国民が、安定的な経済生活や優れた文化を享受し、豊かな生活を送ることに貢献する、ということにあります。

鳥取大学では、昨年4月からあらたに「地域未来共創センター」を作りました。愛称は「とっとりユニーク」TQと親しみを込めて呼んでいる、地方創生の拠点です。大学の正門を入れてすぐ、正面にある建物です。このセンターでは、皆さん学生や教職員が地域の方々と一緒になって、地域活性化に取り組んでいます。

日本一人口の少ない、この鳥取県には、これから未来において日本全国が直面する課題がたくさんあります。高齢化、人口減少、限界集落、空き家問題など、鳥取県で解決することで、日本のトップランナーとなれる可能性もあります。都市部では出来ないユニークな視点、体験、学びが、この大学と鳥取県にはあるのです。

今日は鳥取県の平井知事においていただいております。平井知事や鳥取県はじめ市町村ともタッグを組んで、とっとりユニークの地域課題解決に向けた新しい取り組みは大きな動きになっています。

この活動の中で、皆さんに、ぜひやってほしいことがあります。それは、学生時代にベンチャーやスタートアップなどの起業にチャレンジして欲しいということです。日本でイノベーションが生まれないのは、大学発のスタートアップが少ないことにあると言われています。ぜひ皆さんには、学部を問わず地域に飛び出して住民の方々と、地域の課題解決に取り組んで欲しいのです。日々の生活の中で、地域課題はそこら中にあります。この課題がスタートアップの種です。その種を拾いあげ、磨き、社会に貢献するビジネスへと昇華させる。ただ、いきなり成功するとは限りません。おそらく、その過程で、失敗も経験することでしょう。しかし、失敗を繰り返すことが学びの原点です。失敗しても、またチャレンジすればいいのです。傷つきながらも、チャレンジを続ける皆さんを、鳥取大学は応援し続けていきます。

結びに、皆さんの、ここ鳥取での学生生活が、有意義で彩り豊かなものとなり、一生の宝物として心に刻まれることを願って、お祝いの言葉といたします。

令和8年4月6日

鳥取大学長 原田 省